

## 令和3年度末「学校評価実施報告書」

### 1. 「確かな学力」の育成に向けて

#### (1) 重点目標

生徒が「伝える力」の伸長を意識する教育活動を実践する。

#### (2) 具体的な取組

- 各教科において、「学ぶ意義」「将来性」「身につけたい資質・能力」「魅力」に着目したプレゼン資料を作成し、簡潔・丁寧に伝える全校集会（梅津の学び オリエンテーション）で実施する。
- 教科会を定期的に行い、公開授業月間（11月）を設定し、互いに授業を見て学びとれたことを交流する研修会を行う。
- 「本時の目標」と「本時のふりかえり」を毎授業確認、記述する。
- 確認プログラムが実施されるごとに、授業担当者が成果と課題を詳しく分析し、以降の指導に生かす。
- 学習内容の定着に課題のある生徒に対する個別の支援体制を「伝える力」の伸ばす視点で学年ごとに協議し、実践する。
- 日々の家庭での学習時間確保と一週間の学びの定着を目的とし、生徒一人ひとりに自学自習ノートを持たせて、定期的に朝学活で集めて、終学活で返却する取組をする。

#### (3) 年間総括（成果と課題）

コロナ禍による休校措置や感染予防の見地から、全校での「学びのオリエンテーション」は行えず、学力の低下や学習意欲の減少が心配されたが、3年生の1stの学習確認プログラムテストの結果や学びのアンケートなどをみると、大きく変化はしておらず、逆に危機感を感じる中で、学習についての意義や重要性を感じ、家庭での自学自習の習慣が身についた生徒もいたと考えられる。ただ、1年生のジョイプロテストでの結果を見ると、小学校の最終回より、結果が低下しており、休校による変化に対応仕切れなかった状況が考えられる。

学校評価アンケートでの、生徒質問「学校の授業はわかりやすい」や保護者質問「こどもは学習内容がわかり、学習に前向きに取り組んでいる」では、それぞれ「そう思う」と「大体そう思う」の回答を合わせた比率が、それぞれ前年比、生徒が+0.4%，保護者が+5.5%となっていることからもわかるように、長年の生徒指導の取組の中で、落ち着いて学習に臨める環境ができつつあると考える。

また、昨年度から取り組んでいる生徒につけたい資質・能力として、自らの考えを「伝える力」についても、その定着率がわかるように行った「学びのアンケート」において、教職員が想定しているよりも生徒たちは、「伝える力」を意識して行動していて、生徒たちの方が「伝える力」に対して柔軟な考え方を持ってくれていることがわかった。そのアンケートを基に、教職員も関連する授業形態なども転換し、実感を得ている。

#### (4) 分析を踏まえた取組の改善

「学びのアンケート」の解析をより進め、「伝える力」の内容・意義を生徒・教職員で共有することにより、成果として実感していく取組を進めたい。小中一貫教育の中で、同じく「伝える力」に取り組んでいる両小学校ともしっかりと連携・分析し、成果を共有していきたい。

教員の授業への取組の工夫や意欲が、生徒の学力の伸長にそのまま連動することが明らかになってきており、新学習指導要領やGIGAスクール導入の研修も含めて、意欲的に取り組みたい。

#### (5) 学校運営協議会による意見・支援策

コロナ禍の中、教育課程をしっかりと終え、3年生の進路も決まりつつあることに安心した。落ち着いた状況の中で、さらに学力向上を目指した取組を進めて行ってほしい。GIGA端末導入など、進めていく上で、本校

の生徒実態に合わせて、効果のある方法で、じっくりと対応して行ってほしい。

## 2. 「豊かな心」の育成に向けて

### (1) 重点目標

自分と周りの仲間の人権を大切にし、多様な個性を認め、支え高め合える豊かな人間性の育成

### (2) 具体的な取組

- ・「伝える力」の基礎となる言語能力を高めるため、「朝読書」を小中一貫の取組としても継続していく。
- ・「トークイン梅津」(感動体験作文発表会：年3回)を総合的な学習の時間に行い、自分の考えや意見を文章にまとめ、仲間に伝えさせる。さらに、生徒間で意見交流させることにより、生徒の心をより耕し、クラス・学年・学校の一体感を感じさせ、支え高め合う集団をつくる。
- ・道徳教育を充実させ、共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観を認め合い、その良さを伸ばしつつ、多様性を理解する姿勢を身につけさせる。
- ・3年間を見通した本校の人権教育のスタイルを継続しつつ、生徒の実態や今日的課題に適した内容を取り入れ、充実を図る。あらゆる取組で「人権」と「仲間づくり」を意識する。
- ・いじめや暴力などの問題行動に対しては、毅然とした姿勢で指導を徹底する。特に、SNSなどインターネットを介したいじめの防止を強化していく。
- ・生徒会の「梅津の志」を基にした取組を、全面的にバックアップする。
- ・学校行事を個々の能力が發揮でき、集団として充実できるものにしていく。

### (3) 年間総括（成果と課題）

コロナ禍による休校措置や、授業回復を主とした教育課程編成の中で、道徳や人権学習など、豊かな心を育てる取組が縮小されている中、生徒たちのストレスなどが増し、いじめなどの問題行動が増加するかと思われたが、例年と大きく変わるものではなかった。

3回目のクラスマネジメントシートの結果を見ても、「クラスのやすらぎ」や「クラスのまとまり」などについての指標で、各クラスとも「良好」や「概ね良好」を示し、クラスが居心地の良い場所であることが確認されている。教職員の年度末総括でも、学年が上がるに従って、心にゆとりと優しさが生まれてきていることを感じ取れることであった。

体育大会や文化祭（合唱コンクール・舞台発表）では、感染防止の対策を講じる中、生徒と教職員が協力し、知恵を絞り合って実現可能な形を模索し、実行した。アンケート結果を見ても、生徒のみならず、保護者の充実・満足度は、例年を上回っている。修学旅行の実施も好評であった。

引き続き、SNSなどの使用方法についても、家庭と連携し、指導を重ねていく。

### (4) 分析を踏まえた取組の改善

休み時間などの見守りや家庭訪問などを通じて、生徒にできるだけ寄り添い、一人ひとりを大切にする取組が成果を出している。何か様子に変化があったり、相談があるときには、早い目的に確な対応ができているため、重大な事態になることは防げている考える。学年が進むにつれ、学校に来にくい生徒が若干増えているのが懸念されるが、そういう生徒が、登校したときの受け入れ体制は確立できている。

依然として、学校生活が満足できない生徒も若干名残っている。全ての生徒が楽しく安心して通える環境づくりを目指したい。

### (5) 学校運営協議会による意見・支援策

休校からの詰め込みの教育課程の中でも、生徒たちが生き生きと過ごせている様子に安心した。特に3年生の修学旅行は2泊3日を行ったことに大きな価値があると思う。生徒・教職員が一丸となってコロナ禍に取り組む姿

が読み取れる。

生徒が落ち着きを見せる中で、もし何か事が起ったときに、慌てないように常に危機意識をもって日々の取組をすすめてほしい。

### 3. 「健やかな体」の育成に向けて

#### (1) 重点目標

食・健康・安全などについての関心を高め、心身の健康の保持促進に対する実践力を養い、また部活動などのスポーツを通して、体力の向上・情緒面の安定、また、知的な発達を促す

#### (2) 具体的な取組

- ・新しい生活スタイルを広げ、感染防止対策を徹底する。
- ・保健教育の充実を図り、基本的生活習慣確立に向けた指導と支援を行う。
- ・「食育だより」を活用することなどを通じて、食育を推進することにより、心と体の調和の取れた成長をはかる。特に、朝食を全員がとれるようにはたらきかける。
- ・保健室の意義・目的・利用方法等の指導を通して、自己管理意識を深化させる。
- ・朝の健康チェックを通して、日常的な健康観察を徹底し、迅速な対応をする。必要に応じて、家庭や専門機関との連携を図る。
- ・一人ひとりのアレルギーなどの体質を理解し、適切な対応・支援を行う。
- ・薬物乱用防止教室や非行防止教室などを開催し、違法薬物や飲酒・喫煙の防止に関する指導を充実する。
- ・日常の安全点検を行い、常に危険を回避できる環境をつくる。
- ・定期的に避難訓練や登下校の安全指導を実施し、安全への意識や危機管理能力を高める指導を行う。
- ・部活動のガイドラインを遵守し、適切な運用を進める。

#### (3) 年間評価（成果と課題）

コロナ禍の中での1年間。毎朝夕、検温し体調を確認。そしてほとんどの場面でマスクの着用。手洗いなどの徹底などを進めてきた中で、当然のことながら生徒・教職員の健康への意識は高くなり、生活習慣もかなり回復した生徒多かった。

少しでも風邪症状が見られれば、保健室へ行き体調を確認することもあり、保健室の来室者は昨年度より増えている。ただ、健康状態が安定したこともあり、運動できる場面での集中力は逆に上がってきていた。

学校評価アンケート①部活は活発で積極的に取り組んでいる（生徒）は、「そう思う」と「大体そう思う」を合わせて92.5%（前年同期比+0.7%）。②部活動の時間や内容は適切である。（保）でも、同じく合わせて83.7%（前年同期比+3.0%）となっている。

部活動についても、コロナ禍の中で、感染防止対策を講じながら、できる限り活動したこと、成果をあげたことなどが認められた。

#### (4) 分析を踏まえた取組の改善

教職員を含め、自分の体の状態をしっかりと把握しながらの1年間であった。体力や筋力が若干下がる中で、怪我が増えたところもあるが、いわゆる風邪症状は大きく減少した。

体育の授業や部活動でも、時間や活動内容が制限される中、その意義を考え、集中力をあげて行うことができたと考える。

コロナ禍が引き続きあると考える中で、1年間の経験を生かし、しっかりと根拠のもと、恐れることばかりではなく、様々な取組を展開していきたい。特に、気温や湿度が上がる中で起こりやすい熱中症とのバランスが最も懸念されるところである。様々な活動・取組の中で、しっかりと有効な部分を残したガイドラインを考

え、健康で生き生きとした活動をめざしたい。

本校独自の健康対策スローガンなども考えたい。

(5)学校運営協議会による意見・支援策

コロナ禍の中、消毒活動などを含めて、感染拡大防止対策をすすめ、生徒の健康管理にしっかりと取り組んでもらい感謝している。引き続き、感染予防対策を講じた中で、部活動を含めて、生徒が活躍できる場面を創っていってほしい。

(アンケート結果集計については、学校便り「かきつばた」にて)